

2026年9月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 （前年比 単位：％）

大 阪 店	+2.4	柏 店	※2 +3.5
京 都 店	※1 +1.9	E C 店	+16.9
泉 北 店	+12.6	(株) 高 島 屋 各 店 計	+2.2
日 本 橋 店	+11.5	(株) 高 島 屋 各 店 既 存 店 計	※3 +4.0
横 浜 店	△1.9	岡 山 高 島 屋	+9.6
新 宿 店	+6.6	高 崎 高 島 屋	+2.6
玉 川 店	△2.9	国 内 百 貨 店 計	+2.4
大 宮 店	+5.4	国 内 百 貨 店 既 存 店 計	※3 +4.1

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準（総額売上高）で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。なお、「洛西店」は本年8月3日をもって営業を終了しています。

「洛西店」の前年実績を控除した京都店単独の前年比は+5.8%となります。

※2 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「堺店」および8月3日に営業を終了した「洛西店」の前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+2.4%(※+4.1%)、免税売上高+12.8%、免税を除いた店頭売上高+1.1% (※+3.0%)となりました。

○国内顧客については、気温の低下に伴いジャケットやストール等の秋物衣料・雑貨が堅調に推移し、前年実績を上回りました。

インバウンド顧客についても、高額品に加え、化粧品や子供情報ホビー、スポーツ関連商品等が伸長したことで前年実績を上回り、店頭売上高全体を押し上げました。 ※インバウンド：前年比【件数(客数)】+0.3%【単価】+12.5%

○店舗別売上高は、大阪店、京都店、泉北店、日本橋店、新宿店、大宮店、柏店、EC店、岡山店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高(当社分類・既存店対比)は、紳士服、紳士雑貨、婦人服、婦人雑貨、特選衣料雑貨、呉服、子供情報ホビー、スポーツ、リビング、食料品、サービスが前年実績を上回りました。